

# 『AIA・心のアドベンチャー』の効果と特色

## —理論的・統計学的な検証と解明—



わが国ですでに42万人が受講した積極的人格形成プログラム  
『AIA・心のアドベンチャー』の効果とその特色を  
新たに、大量データと多変量解析を駆使して、統計学的に検証・解明！

【お問い合わせ先】

エー  
**A・アソシエイツ研究所**

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-11-2 巢鴨陽光ハイツ 205

TEL: 03-6912-1515 FAX: 03-6912-1516 携帯 080-3254-2819

Email: [infoaai2017@gmail.com](mailto:infoaai2017@gmail.com)

# 「心のアドベンチャー (Adventure In Attitudes)」とは何か

「心のアドベンチャー (Adventure In Attitudes、以下 AIA と略す)」は、ボブ・コンクリン (Bob Conklin) が中心になって、1950年代半ばに、従来の企業内研修が十分な成果を上げていないのは、行動の源泉になっている心構え (attitudes) に、変化が生じていないからであると提起し、それ以降、20年の試行錯誤を経て、AIA プログラムを完成しました。その後、日本では、1973年から74年かけて、グループダイナミクス研究所 (Institute of Group Dynamics) が、研修の実体験を取り入れながら、現在の日本語版「AIA・心のアドベンチャー」を作り上げました。

AIA プログラムは現場の職場におけるエンパワーメント戦略であり、ビジネス・リーダー、中間管理職、営業担当者、転職希望者、公務員、教師、医師、就職活動中の人たちなどの意識改革・自己革新に役立てられています。AIA プログラムは、すでに世界中で400万人の人が、日本では約6,200社が導入し、42万人が参加しています。

AIA プログラムの目的は、具体的には、次のようなものです。

- コンプライアンスではなくエンパワーメント精神を創造する
- 自己認識を高め、長所、才能、および能力に自信をもつ
- 消極的な態度を積極的・肯定的な態度へ変化させる
- コミュニケーションとチームワークを促進させる
- リーダーシップとイノベーションを鼓舞する
- ストレスと葛藤を軽減する
- 柔軟性を向上させ、変化に打ち勝つ抵抗力を身に着ける
- 目標設定技術によってパフォーマンスの新たなレベルを達成する



「心のアドベンチャー」とは、新しい自分自身を発見する心の冒険旅行という意味ですが、気づかぬうちに、企業家マインドの欠如、目標喪失、マニュアル依存と指示待ち人間、レジリエンシーの欠如、自己責任と使命感の低下、忍耐力・持続力の欠如に陥っている自分自身に気づいて、内発的なやる気を起こし、人生の目標や志を明確にして、積極的な心構えをもつ新たな自分自身を作り上げる変革のプロセスのことであり、次のようなプロセスを経るものとされています。

- ① 人間の行動を変えるには、まず、その人の持つ「認知」そのものを変えなければならない。それには、
- ② 普段の自分の自己概念・自己イメージを見直して、自分の仕事に対する哲学・信念を明確にする。
- ③ そのような「認知」の変化が、心の持ち方、心構えに変化を生じさせる。
- ④ 心構えの変革が、新しいパーソナリティ・人格を創る。同時に、
- ⑤ そのような新たな心構えが、本人の行動となって現れ、本人の人生に生きがいや働きがいを持たせるようになる。そして、自信が湧いてくる。

# 「AIA・心のアドベンチャー」研修プログラムの構成

ユニット1	コミュニケーションの技術
ユニット2	コミュニケーションの問題点-1
ユニット3	コミュニケーションの問題点-2
ユニット4	自己理解
ユニット5	自己評価
ユニット6	自己イメージ
ユニット7	未来思考
ユニット8	自信
ユニット9	自己発見
ユニット10	感情の自覚
ユニット11	心の障害物
ユニット12	人間理解の方法
ユニット13	人間関係-1
ユニット14	人間関係-2
ユニット15	魅力的なパーソナリティ
ユニット16	人間関係の改善法
ユニット17	問題解決の技術
ユニット18	パーソナリティ分析2
ユニット19	リーダーシップ
ユニット20	説得力
ユニット21	自己責任
ユニット22	心構えの再点検
ユニット23	やる気の秘密
ユニット24	未来設計
ユニット25	人生目標
ユニット26	新しい人生への旅立ち

AIA 研修プログラムは、26ユニットで構成されています。時間は各ユニットとも50分で、これに休憩時間等を含めると、1ユニットあたり1時間です。3日間の合宿形式をとりますが、テキストに沿って、外部講師や研修専門家のコーディネーターが時間管理等を行います。

一方的な講義スタイルではなく、二つのユニットからなるラウンド毎に、4～6人規模のグループに分かれるグループ・ディスカッション（以下GDと略す）、ロールプレイング、ゲームなどが用意され、参加者同士による相互啓発・実践学習がなされます。その結果、普段気づいていない既成概念に気づき、積極的な心構えを身につけ、それを行動に移すことを、「心のアドベンチャー」と呼んでいます。また、公認のコーディネーターがコースを担当し、マニュアルに指示してある通りに、GDを進行させ、時間の管理を行います。また、グループごとにリーダーが決められ、リーダーは、ディスカッションが活発に行われるように、グループをリードし、討論結果を取りまとめて発表します。課題ごとにリーダーは交代し、ユニットごとにクループの構成メンバーもくじ引きで入れ替えを行います。

ニューAIA 3日間コースのスケジュール

時間	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
月日(曜日)		自己紹介と オリエンテーション	ユニット1 コミュニケーションの技術	ユニット2 コミュニケーションの問題点-1	ユニット3 コミュニケーションの問題点-2	昼食	ユニット4 自己理解	ユニット5 自己評価	ユニット6 自己イメージ	ユニット7 未来思考	ユニット8 自信	ユニット9 自己発見	
月日(曜日)		感情の自覚	ユニット10 心の障害物	ユニット11 人間理解の方法	ユニット12 人間関係-1	ユニット13 人間関係-2	昼食	ユニット14 人間関係-2	ユニット15 魅力的なパーソナリティ	ユニット16 魅力的なパーソナリティ	ユニット17 問題解決の技術	ユニット18 パーソナリティ分析	ユニット19 リーダーシップ
月日(曜日)		説得力	ユニット20 自己責任	ユニット21 心構えの再点検	ユニット22 やる気の秘密	ユニット23 やる気の秘密	ユニット24 未来設計	ユニット25 人生目標	ユニット26 新しい人生への旅立ち	感想文作成と 意見交換	注：参加されるメンバー数などにより 時間は多少前後する場合があります。		

※「心のアドベンチャー」は、グループダイナミクス研究所（東京・目黒）によって開発された新・意欲啓発プログラムです。

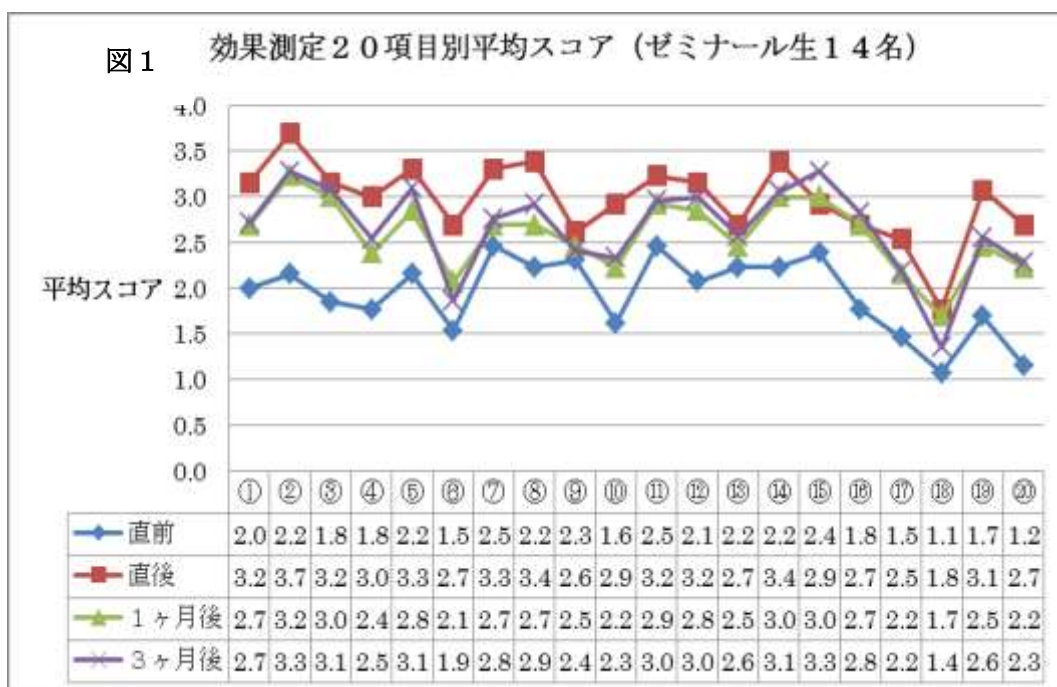
## 「AIA・心のアドベンチャー」研修プログラムの効果測定

AIA 研修プログラムは、「自分は環境を変えることができる」という積極的な自己認知を促進する効果があり、また、AIA は、組織活性化のための基本となる個人の活性化にも効果があります。つまり、AIA 研修プログラムは、参加者の自己認知が、次のようなプロセスで変容することを狙っています。

- (1) 参加者はさまざまな課題について GD を行う。
- (2) 参加者は、GD を通じて、自己イメージを洞察し、他者からどう見られているかを知る。
- (3) 参加者は、自己イメージを明確にし、自らの人となりに消極的な部分があることに気づく。
- (4) 参加者は、積極的な新しい自己イメージをもつならば、自分自身が変容し、自己宣言を通じて、自己認知を変容させることができる。
- (5) 参加者は、自分なりの個性を発展させる自己イメージと目標を定め、それを達成するための計画を考える。

さらに、AIA 参加者の積極的な自己認知への変容効果を測定するために、各ユニットが取り上げる仕事や生活における前向きな「考え方」や積極的な態度に関する 20 項目が作成されました。AIA の研修直前と直後に、その 20 項目に AIA 参加者に 5 段階評価で回答してもらい、両者を比較して、AIA の効果測定を行うというものです。その結果は、研修直後の回答は、直前の回答よりも、すべての項目で、肯定的な評価が高まっていることがわかりました。すなわち、AIA が、参加者に積極的な考え方や態度をもたせ、積極的な行動を実行させようとする効果があるということが実証されたといえます。図 1 は、最近、AIA に参加した M 大学のゼミナール生 14 名の研修直前と直後の平均点を折れ線グラフで図表化したものです。明らかに、AIA 研修直前よりも直後の方が、肯定的な評価をなす人が多くなっています。AIA プログラム

が仕事や生活における前向きな考え方や積極的な態度を促進していることがわかります。また、数か月後にもその効果が持続していることが明らかになっています。



# 多変量解析による「積極的人格」概念の発見

表1は、AIA研修プログラムの効果測定に用いられた20項目を表しています。2012年以降、弊社単独で、現在まで5回にわたって、大学生を対象にした学生意識調査を実施してきましたが、いずれの調査においてもAIA研修プログラムの効果測定に用いられた20項目を質問項目の中に含めてきました。調査結果を分析する中で、たまたま20項目のクロンバック $\alpha$ 係数を求めたところ、表2に示したように、いずれの調査においてもその係数が0.80を超すという信頼性の高いものでした。つまり、表1に示された20項目が、なんらかの人間の心理的傾性を測定する尺度であるということが分かりました。20項目の質問の内容全体が何を言い表しているのかをつぶさに検討した結果、それを、われわれの心の中に宿る「積極的人格」と命名しました。社会心理学的に見ても、このような正の人間性発見は画期的なことなのです。

表1

	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない
1. 話し上手というより聴き上手である。	1	2	3	4	5
2. 相手が話しているとき、自分の意見をささずじっくりと聞く。	1	2	3	4	5
3. 自分の欠点や短所を気にしたり悩んだりせず、長所を生かそうとする。	1	2	3	4	5
4. 嫌いだ、厭だ、がっかり、疲れた等のマイナスとなる消極的な言葉を使わず、自分にプラスになる積極的な言葉を使う。	1	2	3	4	5
5. 感情的になったり、カッとなったりせず、気持は安定している。	1	2	3	4	5
6. ほかの人々が、自分の噂をしていても気にせず冷静でいられる。	1	2	3	4	5
7. 他人についてあれこれ批判したり、判断したりせず、その人を理解するように努める。	1	2	3	4	5
8. 他人の欠点や短所を気にしたり、イライラしたりせず、他人に対して寛大である。	1	2	3	4	5
9. 人に忠告や批判をすすんで求める。	1	2	3	4	5
10. 引込思案にならず、人に積極的に話しかける。	1	2	3	4	5
11. 人の長所を見つけて積極的にほめる。	1	2	3	4	5
12. 自分の思いどおりにならない問題にぶつかってもイライラせずにじっくり忍耐強く取組む。	1	2	3	4	5
13. 自分は人により印象をもたせられる。	1	2	3	4	5
14. 話し合いのとき、自分の見解の主張により、相手の見地に立って考えるように努める。	1	2	3	4	5
15. 自分の生き方や仕事に信念をもっている。	1	2	3	4	5
16. 失敗を気にしたり思い出したりせず、成功体験を思い出すようにする。	1	2	3	4	5
17. 「忙しい」とか「出来ない」とかいうことばを使わず、時間を効果的に活用している。	1	2	3	4	5
18. 本を読んだり、夜間の学校に通ったりして、自己啓発のための時間を毎日とっている。	1	2	3	4	5
19. 将来に期待し、目標を持って生きている。	1	2	3	4	5
20. 自分が人生になにを求め、なにになりたいかという生涯設計がはっきりしている。	1	2	3	4	5

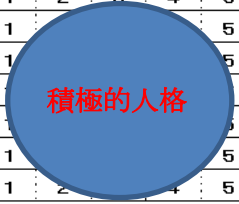


表2

	調査名	調査年月日	サンプル数	クロンバックの $\alpha$ 係数
1	次期総選挙と青年のやる気・意識調査	2014年1月	1149	$\alpha$ 係数=0.843
2	日本再生と若者のヤル気意識調査	2014年12月	1691	$\alpha$ 係数=0.875
3	2015年4月統一地方選挙と青年のやる気意識調査	2015年5月	1146	$\alpha$ 係数=0.839
4	来るべき参議院選挙と青年のやる気意識調査	2016年1月	1092	$\alpha$ 係数=0.863
5	参議院議員選挙と18歳年齢選挙	2016年5月	954	$\alpha$ 係数=0.857

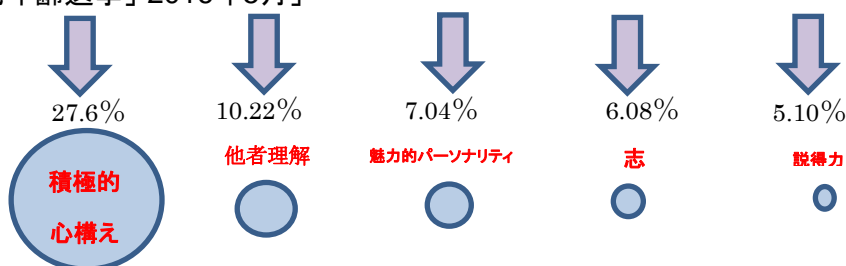
## 主成分分析による「積極的人格」の成分抽出

図2は、AIA研修プログラムの効果測定のために用いられ、しかも「積極的人格」の尺度になっている20項目を主成分分析にかけた結果を表し、「積極的人格」の中身が一体何であるかを示しています。

図2

	成分				
	1	2	3	4	5
1. 聞き上手	0.054	0.112	0.019	-0.018	0.798
2. 相手の話よく聞く	0.071	0.212	0.011	0.057	0.775
3. 長所を生かす	0.733	0.160	0.129	0.002	0.052
4. プラスの言葉使用	0.598	0.266	0.220	0.207	-0.004
5. 気持ち安定	0.315	0.691	0.047	0.008	0.121
6. 冷静沈着	0.612	0.386	-0.085	-0.078	0.084
7. 他人理解	0.101	0.728	0.169	0.117	0.217
8. 他人に寛大	0.116	0.755	0.186	0.030	0.162
9. 忠告批判を受容	0.279	0.149	0.409	0.076	0.056
10. 積極的会話	0.279	0.051	0.714	0.124	-0.219
11. 人をほめる	0.008	0.127	0.759	0.141	0.146
12. 忍耐強い	0.210	0.421	0.323	0.211	0.279
13. よい印象もたせる	0.144	0.116	0.634	0.067	0.183
14. 相手の見地尊重	0.044	0.266	0.318	0.078	0.539
15. 生き方に信念	0.347	-0.164	0.244	0.469	0.167
16. 成功体験重視	0.658	0.073	0.218	0.240	0.021
17. 効果的時間活用	0.596	0.118	0.222	0.259	0.050
18. 自己啓発	0.408	-0.203	0.103	0.347	0.245
19. 将来の目標堅持	0.159	0.149	0.133	0.852	-0.007
20. 明確な生涯設計	0.092	0.132	0.090	0.845	0.002

因子抽出法: 主成分分析 回転法: ハリマックス法  
「議院議員選挙と18歳年齢選挙」2016年5月



各成分の負荷量の高い項目（鼠色の個所）を見て行くと、それぞれ「積極的心構え」、「他者理解」、「魅力的パーソナリティ」、「志」、「傾聴力」と命名してよい5つ成分であることが分かります。つまり、AIA研修プログラムを体験すれば、「積極的人格」が強化・補強され、具体的には「積極的心構え」、「他者理解」、「魅力的パーソナリティ」、「志」、「傾聴力」というものが身につくことを意味しています。とくに、「積極的心構え」の影響力が突出しており、また普段、私たちが日常生活でよく使う「志」という概念が人間の

心の中に存在することも、統計学的に確認できたことは画期的なことでした。



## 多変量解析による「政策作成能力」尺度の発見

平成20年5月に、文部科学省は新しい学生のイメージ像として「**学士能力**」概念を発表しました。先進国で「何を教えるか」より「何ができるようになるか」を重視した取り組みが進展してきたからです。このような「**学士能力**」概念に呼応するような形で、日本のいくつかの私立大学が最近15項目の全学ディプロマシーを作成しました。さらにそれに数問を追加した17項目の質問項目を弊社が新たに作成して、2016年の1月調査と5月調査の質問項目の中に含めて、調査を実施しました。表3は、そのときの調査に用いた17の質問項目です。

分析の結果、驚いたことに、この17項目についてのクロンバック $\alpha$ 係数を求めると、2回のいずれの意識調査においても、その係数が0.80を上回ることが分かりました。つまり、単なる学生の能力を並列的に測定するためのものではなく、何らかの心理学的傾性もしくは能力を測定している尺度であることが示めされています。17項目をさまざまな観点から詳細に検討してみた結果、いわゆる一般的に「**政策作成能力**」と称されているものを測定する尺度であると同定しました。



表3

	そう思う	やや そう思う	どちらか と云えない	あまり そう思わ ない	そう 思わない
1. 教養・基礎学力を修得し、自立的・主体的に学ぶことができる	1	2	3	4	5
2. 自ら積極的に専門分野の知識や技能の体系的な修得を行い他者に説明できる	1	2	3	4	5
3. 自らを他者や社会との関わりの中で捉えることができる	1	2	3	4	5
4. 多様な価値観を認めることができる	1	2	3	4	5
5. 自ら課題を感じ取り、共有することができる	1	2	3	4	5
6. 自ら積極的に社会に働きかけて、最後まで行動していくことができる	1	2	3	4	5
7. コミュニティの人のためや世のために行動できる	1	2	3	4	5
8. 日本国民の幸せのために行動できる	1	2	3	4	5
9. 世界の幸せのために行動できる	1	2	3	4	5
10. 問題に対して自ら積極的に情報収集を行うことができる	1	2	3	4	5
11. 問題に対して論理的に思考することができる	1	2	3	4	5
12. 問題に対して多角的な判断ができる	1	2	3	4	5
13. 自ら制約された条件の中でも、多くの可能な解答を引き出す発散的な思考ができる	1	2	3	4	5
14. 課題に対し、仮説をたてながら、調査、分析し、適切な答えを導くことができる	1	2	3	4	5
15. 自ら複数の言語を活用して、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる	1	2	3	4	5
16. 自らの考えを明確かつ論理的に組み立て、文書や、図解等を用いて論文や報告書にまとめて発表することができる	1	2	3	4	5
17. 自ら対話を通じて他者と協力し、目標実現のために、方向性を示し、実行できる	1	2	3	4	5

政策作成能力

さらに、同様に、これら17項目を主成分分析にかけると、「**課題の解決**」、「**現状分析・課題発見**」、「**目標設定**」、「**政策実行**」能力の4つの妥当な成分が抽出されました。「政策作成能力」を測る尺度をわれわれがまったく持ち合わせなかったから考えても、このような「政策作成能力」を測定する尺度が発見されたということは、コロンブスの卵のごとく、これまた画期的なことであると言わざるを得ないのです。

## 「積極的人格」から「政策作成能力」が生まれる

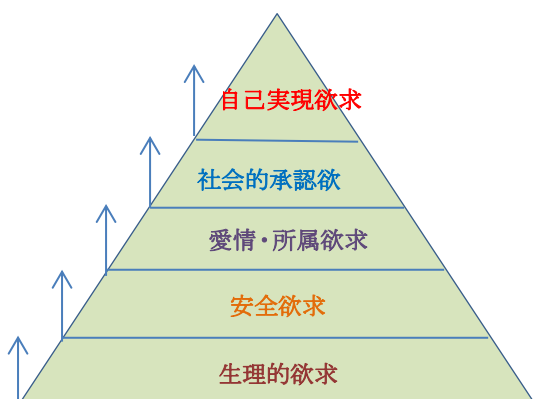
「積極的人格」測定尺度の妥当性を示すために、他の確立された測定尺度との相関係数を示したものが表4です。「ストレス」、「孤独感」、「抑うつ」とは負の関係にあり、「政策作成能力」、「やる気スコア」、「創造性」、「マズロー（Abraham Harold Maslow）の階層的欲求」とは正の関係にあることがわかります。とくに、「積極的人格」と「政策作成能力」との相関係数は、0.639と極めて高く、両者は密接に連繫しています。したがって、AIA研修プログラムを体験すると「積極的人格」が形成・補強され、同時にその結果として「政策作成能力」も身に付いていくことを意味しています。



表4

他の確立された測定尺度	積極的人格との相関係数	調査時期
(1) ストレス	-0.342	「日本再生と若者のやる気意識調査」2014年12月
(2) 孤独感	-0.283	「日本再生と若者のやる気意識調査」2014年12月
(3) 抑うつK6	-0.263	「日本再生と若者のやる気意識調査」2014年12月
(4) ネット依存症	-0.216	「来るべき参議院議員選挙と青年のやる気意識調査」2016年1月
(5) 社会的優位志向(SDO)	-0.013	「日本再生と若者のやる気意識調査」2014年12月
(6) 右翼権威主義(RWA)	0.078	「日本再生と若者のやる気意識調査」2014年12月
(7) マズローの階層的欲求	0.223	「来るべき参議院議員選挙と青年のやる気意識調査」2016年1月
(8) 創造性	0.343	「2015年5月統一地方選挙と青年のやる気意識調査」2015年5月
(9) やる気スコア	0.365	「来るべき参議院議員選挙と青年のやる気意識調査」2016年1月
(10) 政策作成能力(学士能力)	<b>0.639</b>	「来るべき参議院議員選挙と青年のやる気意識調査」2016年1月

因みに、マズローの階層的欲求とは、人間の欲求は5段階のピラミッドのように構成されていて、低階層の欲求が満たされると、より高次の階層の欲求を満たそうとするという考え方です。



- ・「自分の資質を十分に発揮し、最大限のことを成し遂げたい」
- ・「有能になりたい、他の人から認められたい」
- ・「家庭、大学、地域社会で、ひとりの人間として深く理解され、受け入れられたい」
- ・「危険や不安を避け、安全で秩序ある生活を送りたい」
- ・「命を大切に、健康な生活を送りたい」



## やる気はどこから生まれるのか（パス解析）

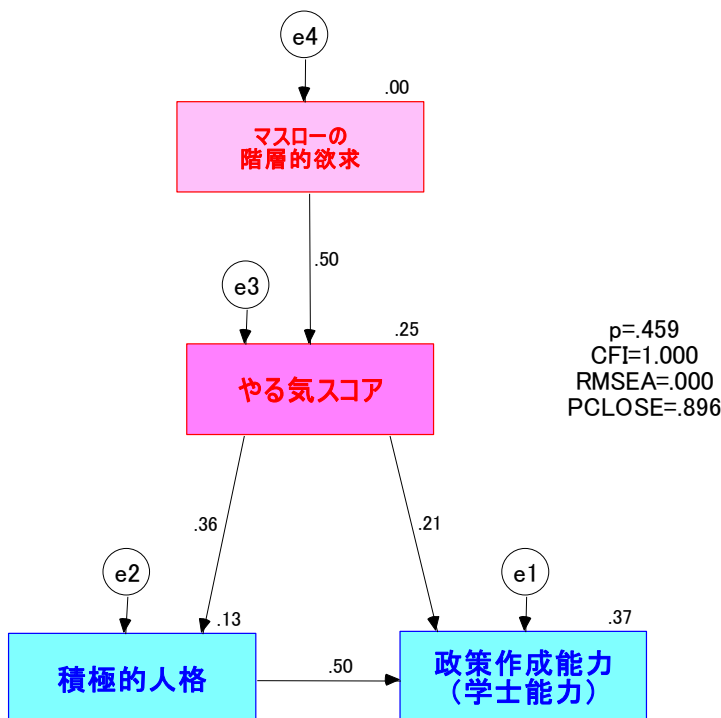


さらに、「積極的人格」と「政策作成能力」や「やる気スコア」（島根医科大学第3内科開発）などの他の正の関係にある尺度との関係を示すために、データにパス解析（矢印は因果関係）を施した結果を示したものが、**図3**です。意外とも思える結果ですが、「マズローの階層的欲求」からいわゆる「やる気」が生まれることが示めされています。さらに、「やる気」が出てくることによって、「積極的人格」と「政策作成能力」（学士能力）が促進されることも示唆されています。「やる気」ないしは「モチベーション」がどこから出てくるかは、社会心理学や経営学などの分野で盛んに議論されてきた重要な問題です。「やる気」が「マズローの階層的欲求」に根ざすものであるというのが、統計学的に検証されたことも画期的なことなのです。

したがって、このような欲求を満たしていけば、「やる気」が出てきて、「積極的人格」が形成されて「政策

作成能力」が身につく、オールランドプレイヤーとはいわないまでも理想的な政策マンに近づいていくことを意味しています。政策マンを育成することが「人財育成」そのものではないにしても、「マズローの階層的欲求」を満たして行くことが極めて重要なことであることが指し示されています。とくに「自己実現」概念をいかに「人財育成」の現場で活用していくかが今後の大きな課題となってきますが、マズローは、「自己実現」のさらにもうひとつの段階として「自己超越」を設定し、このレベルに達している人は人口の2%ぐらいであると言っています。

**図3 「積極的人格」と「政策作成能力」の淵源について**



## 第4次産業革命と「AIA・心のアドベンチャー」

2015年に、IoT（Internet of Things）、人工知能（Artificial Intelligence）、ビッグデータ（Big Data）に始まる技術的ブレークスルーを活用する「第4次産業革命」の時代に突入したと言われ、その進展スピードは累乗的に速まっています。そのような状況の中であって、どのようなスキルや能力が働き手に求められるかが問題となってきていますが、この点については、すでに『第5期科学技術基本計画』、『科学技術イノベーション総合戦略』、『日本再興戦略2016』、『理工系人材育成に関する産学官行動計画』、『第4次産業革命に向けた人材育成イニシアチブ』等に取り上げられているところであり、「情報活用能力を備えた創造性に富んだ人材の育成が急務」となっています。しかしながら、一方において、『情報通信白書（平成28年度版）』が指摘するように、第4次産業革命の時代にあっても、仕事をする上で必要な、最も基本的な要素が、「意欲（やる気）」と「人間関係（円滑なコミュニケーション）」であることには変わりがないといわれています。したがって、そのような基本的な要素を高めるところに、この「AIA・心のアドベンチャー」研修に参加することの意義があるのです。

同時に、第4次産業革命が医療・介護・健康を含むあらゆる分野に浸透し、成長する産業／衰退する産業、増える仕事／減る仕事などが議論の俎上に載せられ、日本国内の産業・就業構造が大きく変化して行くことは誰の眼にも明らかです。しかしながら、むしろ、それを新たなビジネス・チャンスと受け止め、次世代にふさわしいビジネス・モデルを創造していくことが、改めて求められていくでしょう。

そのためには、情報活用能力ばかりでなく、時代を切り拓いていく精神力が必須です。そのような精神力の形成に、積極的人格形成プログラム「AIA・心のアドベンチャー」が有効に作用するのです。さらに、中国の台頭とアメリカのパワーの相対的低下という国際環境の変化の中で、日本の進むべき道を考えることが急務となっていますが、そのためにも、「やる気」と「志」というような基礎力も必要になってきます。

図4

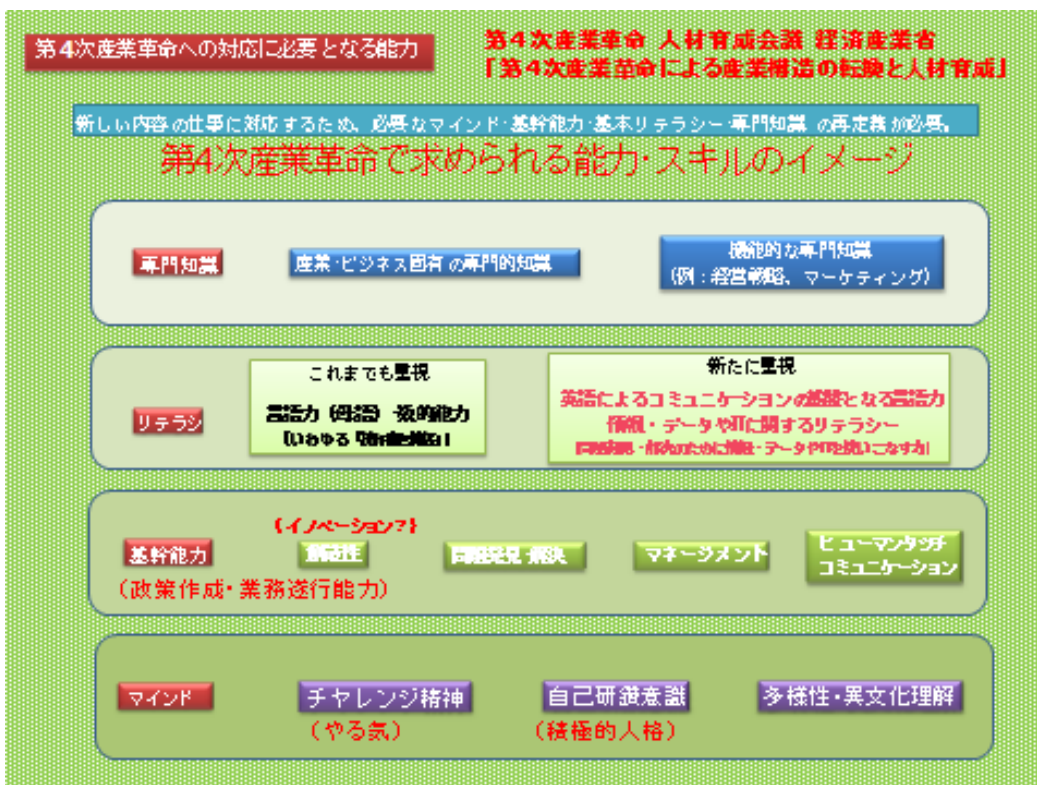


図4は、経済産業省の「第4次産業革命・人材育成会議」が示した第4次産業革命に求められる能力・スキルが示されていますが、下層の「基礎能力」と「マインド」に該当するものが「やる気」「積極的人格」「政策作成能力」に相当すると言ってよいでしょう。

## 研修対象者、助成金の活用、主な AIA 導入実績企業

積極的人格形成プログラム「AIA・心のアドベンチャー」は、プラス志向の方とゼロ・マイナス志向の方の両方に有効です。また、**厚生労働省・人材開発支援助成金の活用すると研修費が約半額になります！煩雑な申請手続きも弊社で無料で請け負います！**

プラス志向の方	ゼロ・マイナス志向の方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 変革の時代を切り開く起業家</li> <li>・ 中堅管理職やビジネス・リーダー</li> <li>・ 昇進前の部長クラス、昇進希望者</li> <li>・ 新たに事業を始められる人</li> <li>・ 生涯現役で働きたい人</li> <li>・ 創造力が必要なイノベーターや芸術家</li> <li>・ 教師、公務員、医者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入社3ヵ月位の新入社員</li> <li>・ 営業担当のセールスマン</li> <li>・ やる気のない従業員</li> <li>・ 転職希望者</li> <li>・ 能力の出し惜しみをしがちな人</li> <li>・ 就農希望者</li> <li>・ 就職活動をしている学生</li> </ul>

### 主な参加企業

